



AbBa便り

13号 春号

スピードより 方向が大事

日本運動本部指導牧師

張 在 潤 牧師

(東京オンヌリビジョン教会)



若い人には夢があり、希望があります。結婚して、なるべく早く成功したいという望みがあります。

ある夫婦がいました。結婚して一年も経っていませんのに、妻が夫に話しました。

「子供は、ある程度、生活が落ち着いてから産むのがいいじゃない？ 誰よりも早く安定し、成功したいと思いますので、お互いにがんばりましょう。私は大学院に進学して博士を目標に勉強して大学教授になりたい。あなたも会社のことだけでは足りないから、自分の仕事を作って、がんばってくれないか。」

夫は、大変強気になった妻に驚きました。知らない内に家庭の主導権を妻に取られてしまったのです。その日から夫は妻が言うとおりに動かなければなりません。彼はIT分野が得意だったので、ソフトウェアを作る会社を自分で立ち上げ、現在の会社から帰宅すると、夜遅くまで自分個人の仕事に精を出してがんばりました。収入も少し増えていきました。良かったと思いました。妻は大学院生に、夫は夜遅くまで二つの会社の仕事を続けました。

ある日、夫が大変疲れていて、このままでは死ぬかもしれないという危機感をもちました。彼は決心して妻に話しました。

「このままでは、私は死にそうだ。一つの会社は辞めなければならない。」

その瞬間、妻は厳しい声で「男のくせに、そんなに弱いとは思わなかったわ。何を言っているのですか。」と叱りました。主導権を奪われた夫としてはもう仕方がありませんでした。そして、その二重生活を続けましたが、ついに耐えられなくなりました。

もう一回、妻に話したいと思っても、通じないと判断した彼は、ある日、静かに去ってしまいました。つまり、行方不明になったのです。彼の家族が皆で、毎日熱心に探し、調べましたが、発見できませんでした。生きているのか死んだのかも分からず、悩みが深くなりました。

これは何を意味しますか。「スピード」より大事なものは「方向」です。最近多くの会社が、方向が間違っているのに、スピードだけを考えて、つっ走って、大変な赤字になっています。

家出して物乞いになっていた夫が3ヶ月後、家に戻って来ました。神様に全てを委ねて、導かれる方向に進まなければなりません。スピードよりも、神とともに歩むのが知恵です。皆さんの夢と仕事がどうなっているのか？

新しく迎えた2013年を、静かに考えながら歩みたいと思います。ちょっと遅れても正しい方向に進まれるように、お勧めいたします。



Duranno父の学校
日本運動本部

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-3-18 三蔵住建第一ビル 3F

TEL: 080-7011-5945 (小泉) FAX: 045-315-4256

E-mail: kkoizumi389@yahoo.co.jp (小泉)

Homepage: <http://fatherschool.net/>

神奈川1期 特集



開催報告

開設リーダー：村上洋一 横浜3期
 進行者：横溝達夫 横浜4期

父の学校神奈川1期は、小田急線百合ヶ丘駅近くの主都福音キリスト教会で、2013年1月12(土)、14(祝)、19(土)の日程で行われました。

同教会の長澤兄が、2011年、淀橋教会での夫婦セミナーに参加し、即刻淀橋教会での父の学校東京8期への参加を決断、そこで体験した大きな恵みをご自分の教会でも、との思いから主都福音キリスト教会での開催を小坂田牧師に提案され、賛同を得、その後約1年の祈りと、前年11月8日から、7回にわたる現地準備祈禱会を経て、その日を迎えました。

今回は福沢満雄先生が全講義を担当され、開設リーダーは同教会出身の村上、進行者は横浜都筑祈禱会の仲間の横溝、管理チームリーダーは遠藤兄、また特に会場設営や運営には長澤兄ほか同教会の方々のご協力を頂きました。

志願者は21名（主都福音キリスト教会関係：14名）、内修了生は17名でした。

今回、英語の班の必要が生じ、幸い講義の通訳者も備えられ、アメリカ人2名と英語の堪能な兄弟たちが楽しそうに交わり、“Where the father goes, the Family goes!”と素晴らしい掛け声をかけていたのが印象的でした。

更に今回志願者や奉仕者の奥さん方が福澤先生の講義を裏の目立たない場所で聞き、その後とりなし祈禱の部屋に戻って自分達の問題として分かち合う事ができたと聞いております。このような形で家庭回復が進められて行く事は注目すべき点だと思います。姉妹たちは別室での保育も兼ねて奉仕してくださいました。

父の学校

が始まると、実に多くの兄弟姉妹が色々な形で参加してくださり、必要を満たしてくださっている事が良く分かり、聖霊様の導きの確かさを心から感謝しました。

中日の14日は時ならぬ大雪に見舞われ、また風邪やインフルエンザのための欠席もありましたが最終日(霊性・家庭)は終日家族での分かち合いで最後の感謝献金にも、深い感謝が表わされていました。



証し 神奈川1期に参加して

神奈川1期 曾田敏彦

3班 “オープンハート”

ハレルヤ！ このたびは、父の学校神奈川1期に参加できたことに感謝します！

期間は2013年1月12日(土)、14日(月)が夕方の5時頃まで、この日は未曾有の首都圏大豪雪でした。最終日19日(土)夜8時頃までという、3日間のロングランでした。

父の影響力を学ぶ過程で、福沢満雄先生の講義でとても印象に残った言葉があります。「父を、国籍を、環境を、自分の人生を選ぶことはできない。」「愛されない子供は、愛することができない。なぜ？それは愛するというを学んでいないから。愛されて育ってないと、愛することがわからないから。」本当にそうだと思います。

私の子供の頃がまさにそうであったと思います。幼かった頃の私にとって父は、とても怖い存在でした。仕事の疲れからか、いつもイライラしていた父。すぐ怒る父の姿に、幼い私はいつもビクビクしていたものです。



すこしでも口答えすると血相が変わり、手や足をブルブル震わせて怒りながら、文字通り手や足を出してぶん殴ってくる父に、部屋から庭まで転がった私と妹でした。「お父さん、やめてください。」といいながら間に割って入ってきた母にも手を挙げた父。それを聞きながらワーワー泣いていた妹の声がいまでも耳にこびりついています。

思春期になった頃には、言葉の暴力。ばかだ、まぬけだ、おまえは何やってもダメだと否定され続け、自信のない私ことができました。

そんな自信のない私を育ててくれたのは、会社でした。具体的な世の中の作法に関しては、親に教えられたのではなく、就職してから会社にそして社会に育てられたと思います。

私が30代前半でクリスチャンになり、その後両親もクリスチャンになり、子供の頃のことはイエスの十字架の下で、親子の赦しと和解が与えられていたと思っていたのですが、父の学校での「父の影響力」の学びを通して、神の光が当てられて心の中にまだある葛藤が、浮かび上がってきたのでした。

だから・・・「父の学校」で父親に手紙を書く宿題が出たのですが、父に対する感謝の思いをしたためることができませんでした。

いま「父の学校」の課程を終えて、父への思いが変わりつつあります。まだ20代だった父が、私という子供ができ、父親になるどころかその日その日食べるのに精一杯で、不安を抱えながらギリギリの生活を送っていたことや、父は戦後の日本にシベリアの抑留からやっとの思いで帰還した自分の父親を中学生の頃に亡くし、父親の記憶がほとんどない6人の兄弟姉妹の中、大変な思いをして上京してきたことを思うにつけ、父の苦悩と葛藤の人生に思いを馳せることができました。

父の学校では福澤先生からのみことばの学びを

通して、実の父への恨み、つらみが思い起こされて悲しくなるばかりだった前半と、悲しみが喜びと期待に変貌していく後半の、十字架を囲んでのキャンドルのイベントを通して、み言葉からの癒しをいただき、実の父への悔い改めと感謝の思いが新たに起こされてきました。

2日目の宿題は、愛する妻への手紙、妻の愛らしい20項目の二つでした。(子供さんがいる父親には、おなじく子供への手紙と、子供への20項目があります。)手紙を書きながら、こんな私にいままでついてきてくれた、愛する妻への感謝の思いでとめどなく涙があふれるばかりでした。

最終3日目には、愛する妻が合流しハイライトの洗足式へとプログラムが進みましたが、その日は愛する妻を伴侶として与えてくださった恵み深い父なる神様への感謝の時となり、心を込めて私の長年の心の隙間を埋めてくれた、愛する妻の足の裏表や指の間を洗わせていただきました。

3日間の学びを通して、私たち夫婦には子どもこそ与えられませんでした。私は、愛する妻の待つ家庭を主の光に日々照らされながら、父として祝福を与えるものとして、家庭を収めていくことを誓います。

そして霊的な父として、ビジョン・パッション・ミッションを持ちながら生きていくことを誓います。

さて、父の学校修了後のとても感謝な後日談があるのです。

父への手紙という宿題で、手紙は父の学校事務局が責任をもって、実の父に郵送してくださるというものでした。他の受講生がこぞって父に対する感謝の手紙を書いていたのに、私の手紙には父に対してありがとうという言葉が出てこなかったのです。その「父への手紙」とは、

『お父さんには、私の人生の手本になってほしかった。手本となるお父さんの背中をみて大人になろうと思ったけど、残念だけどその手本となるべき背中が見えなかったよ。私はお父さんのような人生は送るまいと心に決めていたように思う。でも偉そうに家を出た私を、なにかあると受け入れてくれたのもお父さんだった。』
このような手紙だったので、読んだ父はきっと怒るに違いないと勝手に判断していました。ですから父に「手紙が届くけど開けないで置いて。」と自分の肉の思いで電話をしたのですが、後日電話したら「手紙をもらったよ。読んだよ。ありがとうね。返事を書こうかと思っていたのだよ。」と言われ、意外にも父からありがとうという言葉聞き、そんな父



の声に思わず涙が溢れそうになり、心が通じた気がしました。思いを遥かに超えた神の働きを目の当たりにし自分の肉を悔い改め主を崇めました。このような恵み溢れる機会を与えてくださった、父の学校の運営スタッフや奉仕者のおひとりおひとり、そして指導牧師の福澤満雄先生に感謝申し上げます。そして、私の人生にご計画をもっておられた神様、この父の学校をも備えて下さり、感謝するとともにすべての栄光を主にお返しいたします。

「主よ、私が父親です！」

「父が生きると、家庭が生きる！」

ロンドン1期 特集

開催報告



開設リーダー 堀ノ内菊三郎
(東京2期)

ロンドンでの日本語による初めての父の学校は主が日本とニューヨークとロンドンの沢山の人の心を奮い立たせ、素素晴らしい恵み溢れる父の学校を開かせてくださいました。

先ず主に全てのご栄光と感謝を捧げます。ハレルヤ、主は素晴らしい。

ロンドンでは、現在6ヶ所で日本語礼拝が捧げられています。今回その全ての教会へ父の学校のご案内をさせて頂きました。最終的に13人の志願者が参加して下さい、その内7名の方が修了されました。修了生のお一人は求道中でしたが、父の学校へ参加されることを通して信仰の確信が与えられ、この春洗礼をお受けになることが決まったとの嬉しいニュースを受け取りました。

日本からの奉仕者は大人10人、ニューヨークから1人と、それに現地ロンドンの韓国父の学校から全面的なご支援を頂きました。その上志願者3人も昨年の準備祈禱会から、父の学校のビジョンを共有し、祈りと奉仕にご尽力くださいました。このロンドン1期で、25人以上の兄弟姉妹が、国籍、言語、性別、年齢、職業を越えて、主に在って愛し合い、一致して、喜んで奉仕をしておられる様子は、目に見えない主のお働きを、目で見せて頂く大きな恵みでした。

これからロンドン1期を皮切りに、英国を含めヨーロッパ各地でどのような父の学校を、主がご計画されておられるのか、皆で折り求めながらお

従いしたいと願っています。主に感謝します。

ロンドン1期に奉仕して



進行者 遠藤茂雄
(横浜2期)

ロンドン1期は2月8日(金)から10日(日)まで、ロンドン郊外ウインブルドンのエマヌエル教会と韓国教会を会場に、日本・ニューヨーク・イギリスの奉仕者により開催されました。日本からロンドンに赴いた奉仕者は、今回の父の学校の参加者でもあるJCF(ジャパニーズ・クリスチャン・フェロウシップ)のピーター・ヤング宣教師の牧師館に集合し、おもてなしを受け、その後打ち合わせと祈り会をもちました。

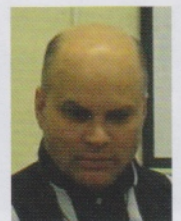
初日の会場準備は短時間でしたが、何とか間に合わせ、志願者をお迎えしました。3日目は旧正月でロンドン市内の交通が混雑し、日本語礼拝が午後から持たれていることもあり、志願者の到着が遅れ、30分遅らせての開催となりました。

時間的には短かくても、質を保つために、削る言葉は削り、残す言葉は残して1字1句の戦いのようでした。講師の福澤先生も講義の長さを整えるのにご苦労なさったと思いますが、いつものようにとても心に響く講義をしてくださりました。

志願者は、2日目から賛美のうちに心が開かれ始めたのが感じられました。愛する奥様や子どもへの手紙を書く中で、また3日目の講義・洗足式を通し、もう1度お互いの絆を確かめ合う時となったのではないかと思います。

ロンドンの落ち着いた素晴らしい街並みのなかで奉仕させていただいて感謝です。主にある兄弟姉妹方、そしてホームステイさせていただいたご家庭に感謝します。

証し ワトモー・パトリック
(ロンドン1期)



私はワトモー・パトリックと申します。この間、初めてイギリスの「ロンドン父の学校」に参加させて頂きました。その時の感想を三点書きます。

1. 父の影響力

父の影響力について、とても考えさせられました。勿論、父の学校に入る前にもある程度知っていましたが、父の学校のお陰でもっと深く知り、

いろいろな面を再確認させられました。

まず、私が父から影響を受けている事を思わされました。やはり、ふり返って見ると、どんなに父から影響を受けていたかが分かります。例えば父の行動を毎日見ていたので、私も無意識のうちに同じ行動を取っていました。勿論、良い所もありましたが、良くない面もありました。今意識しながら良いところを身につけて前進し、同時に悪い所はなるべく放棄して歩んでいます。結果として、もっといい父親なるように願っております。

次に、私の父としてのあり方は、自分の子供達にも影響を及ぼすことを学びました。それも無意識のうちに、私から吸収してしまいます。

私はそのことにとっても責任と感じて、生ける神様から知恵や力を頂きたいと思いました。二人の息子だけでなく、次の世代にも影響を及ぼすということをしみじみ認識させられました。今の私のあり方が、今後百年以上にも渡って影響を及ぼすのです。その責任は非常に大きいと思います。

2. 父親の霊性

父親の役目は神様から委ねられたものですから霊的なリーダーにならなければなりません。それを果たさないと、父親の役目は中途半端になってしまうと学びました。

霊性に満たされた父親としてやるべき任務があります。まず、自分に与えられた愛する妻と愛する子供達を祝福すること。毎日、家を出る前に家族を祝福していきたいと思いました。

家族に対する本当の愛について、さらに考えさせられました。家族の愛を決してあたりまえと思わず、毎日、意識して神様からの素晴らしいプレ

ゼントとして見るべきだと分かりました。

そうすると、きっと家族全員がもっと一致を持って神様の栄光を表わすようになると思います。神様の助けを求めなければ何もできないので、もっともっと神様に父親としてすぐることを学びました。結局、私が天の父とつながらなければ、上手く自分の家族とつながれない、それが決して忘れてはいけない、極めて大事な点でした。

3. 自分の父親に手紙を送りました

正直のところ、しづしづ父に愛の手紙を深夜に書きました。最初に何を書いたらいいのか、全然思いつきませんでした。考えるうちに少しずつ文章が流れ始めました。

「私はあなたを愛します。」と書きました。切手を貼って郵便局に行き、ポストに入れる前に切に祈りました。その手紙をもらって私の父がどの様に反応するかを考えると、ちょっと悩みましたが、神様に委ねきって勇気を持って送りました。

すると、約一週間後に、待望していた父から返事が来ました。緊張しながら手紙を読みました。手紙の中身はそんなに深くはありませんでしたが幸いな事に、父が私の手紙を認めて家族の愛について少し書いていました。

私の父は「あなたを愛します。」と婉曲的にしか語っていませんでしたが、それなりに、父にとっては、最高の言い方だと思います。それでも、それで私は満足でした。でも、これが結論では無く、これから父親がまだ生きていううちに更に親しい関係を築いていきたいと思っております。心から切に祈っています。ハレルヤ！

夫、父としての自分を悟ることができる、素晴らしいチャンスをくださった神様に感謝します。

韓国からの宣教師である私は、韓国にいる時から、父の学校のことをよく聞いていました。日本にもこの働きは絶対に必要だと思っ

てはいましたが、私たちの教会で開催するとは考えもしませんでした。どのようにして開催できるかなど、心配もありましたが、本部の方で執り成しの祈りをはじめ、細かいところ



まですべて奉仕してくださり、開催教会としては本当に助かりました。一ヶ月前から毎週の木曜日にスタッフたちが現場に集まって賛美し、分かち合い、祈りながら開催に備えました。

苦しんでいる日本の家庭を福音をもって回復させたい、お父さんたちを力付けたいと願うメンバーが集まって、信仰と希望と愛による結束が感じられ、準備段階から恵みを受けました。

短い三日間でしたが内容は濃く、スタッフたちの献身の姿には頭が下がりました。それに福澤先生の生きた証と先輩たちの回復の証には大きな感動と慰めがありました。

愛する妻に手紙を書き、子どもたちにも手紙を書きました。私が手紙を渡した時、夫から父から手紙を受け取った家族の表情は今も忘れません。嬉しかったでしょう！

いつも妻と子どもたちを愛していると思いましたが、手紙を書いてみると気づいていなかったことが沢山ありました。大切なこの悟りを実践していこうと努力しています。

たった一度父の学校をやったからと言って急激な変化はありませんが、車のルーム・ミラーにかけてある「主よ！私が父親です」と書かれた十字架を見るたび、心に決意します。「主よ！夫らしい夫となりますように、主の前で恥ずかしくない父となりますように。」と。

奉仕してくださった福澤満雄先生をはじめ、奉仕者の皆様に心から感謝します。そして、この働きをこの地で行なわせてくださった神様に感謝します。

この働きに主の導きがありますよう祈ります。父ハレルヤ！



韓国ビジョンナイトに参加して



日本運動本部長 小泉金次郎

今年1月、年韓国オンヌリ教会を会場にして開催され、2,500人以上が集まりました。日本からは金

聖守兄、イエジュン君と私たち夫婦の4人が参加しました。会場では元日本運動本部事務局長の崔兄弟と奥様にも再会でき感謝でした。

今年も日本の国旗を持って登壇しました。賛美等のプログラムと李ジェフン先生のメッセージ、今年も父の学校と母の学校の合同のビジョンナイトで金成黙長老ご夫妻が壇上に上がりビジョンを熱く語りました。

父の学校は1995年に開始されて以来、世界54カ国で開催されてきました。母の学校は1999年以来世界35カ国で開催されてきました。

今年のテーマは「情熱」

- 父の学校、母の学校は聖霊運動なので祈りが必要。毎朝、父の学校、母の学校の為に祈って下さい。
- 献身。1年に1回以上は奉仕に参加して下さい。
- 弱い支部を助けて下さい。
- 毎月1万ウォンは捧げて下さい。(日本の千円基金と同じ) 外国へアウトリーチに行かなければなりません。その為に資金が必要です。
- 広報が必要です。父の学校は母の学校を知らせて母の学校は父の学校を知らせて下さい。
- フェースブックやツイッターのメディアを使って父の学校、母の学校を知らせて下さい。
- 父の学校、母の学校は教会の未来です。
- メキシコは今回10名が毎月\$100を積み立てて参加してきたので多くの励ましを得た。来年は日本も皆で積立をして行けたらと思います。

13日(日)はオンヌリ教会ソビンゴの礼拝に出席。その後、父の学校の本部にて各国のリーダーシップ達の報告会が持たれました。



金成黙長老は、「家は買う事が出来るが、家庭は買う事が出来ない。」と熱く語っていました。

昨年のビジョンナイトに参加した時、ヨーロッパの本部より、ロンドンでの日本語の父の学校開催について依頼されました。この一年間、日本運動本部は皆で祈り備えてきました。ロンドン1期参加者13名の内、一人はパリからの参加で、感謝でした。この事を通してフランスでも最善の時に日本語の父の学校が開催される事を祈り始めています。

今年もこのビジョンナイトの開催にあたり、金成黙長老ご夫妻はじめ、韓国父の学校修了生の皆様が、見える所、見えない所で奉仕して下さい、言葉で言い尽くせない感謝でいっぱいです。



◆本部の取り組み 父の学校(修了生&家族)リトリートのご案内(参加募集)

父の学校修了生の皆様へ 2013年4月

- ・趣旨 父の学校のビジョンを分かち合うと共に、修了生家族同士の親睦を深める。
- ・日時 2013年4月28日(日)、29日(月)〈1泊2日〉 集合:28日(日)18:00、解散29日(月)13:00
- ・場所 日本殉教記念館(ミツパ祈祷院)、Tel 042-596-2420 ・連絡先 小泉金次郎 080-7011-5045
東京都あきる野市乙津582-1 (五日市線武蔵五日駅から送迎可)
- ・内容 ビジョンの分かち合い 聖会 交わり 温泉入浴 川遊び(希望者)
- ・参加費 5000円程度(宿泊費 夕食代 茶菓代) ※温泉入浴費(800円) 2日目昼食代は別途各自負担
◎温泉は、「秋川溪谷 瀬音の湯」と言います。アルカリ性単純温泉。周りが自然豊かでとてもリラックスできます。

事務局便り

◆開催報告

- ・神奈川1期(1月12, 14, 19日) 主都福音キリスト教会(川崎市多摩区百合丘)
開設リーダー:村上洋一兄 進行者:横溝達夫兄
講師:福澤満雄師
- ・ロンドン1期(2月9-11日) エマニュエルチャーチ 韓国教会 開設リーダー:堀ノ内菊三郎兄
進行者:遠藤茂雄兄 講師:福澤満雄師
- ・沖縄6期(3月16, 23日)
ハウスオブプレイズチャーチ(北中城村)
- ・名古屋母の学校(3月28-30日)
名古屋オンヌリ教会
- ・メトロニューヨーク2期(4月5-7日)
ボゴダ教会
開設リーダー:平野兄、大清水兄、山田兄、講師:
福澤師、立石師、李師、進行:李炯雨兄、管理:
小泉金次郎兄、執り成し:小泉昌子姉
- ・東京10期(4月12-14日)
東京ロゴスライフ教会
開設リーダー:金聖守兄、進行:李炯雨兄、
講師:金聖守兄、姜師

◆開催予定(計画中)

- ・東京11期(5月11, 18, 25, 6/1) 北区王子
東京オンヌリ教会王子伝道所(TEPEL)
開設リーダー:笠原誠規兄
- ・埼玉西地区1期(7月13-15)
狭山キリストの教会
- ・酒田1期(10月12-14)
酒田キリスト教会(山形県)
進行:今井和彦兄
- ・名古屋2期(日程未定)
- ・新潟3期(日程未定)
- ・大阪8期(日程未定)
- ・ロスアンゼルス1期(日程未定)

◆献金してくださった方々

ありがとうございました。

「父の学校」千・千基金、感謝献金、諸指定献金
団体・教会・個人献金者(敬称略)

2012年

- 11月 小泉金次郎 福澤満雄 遠藤茂雄
白澤栄一 岩崎鉄男
- 12月 田島幸児 篠田祐司 長岡淳三 池川豊吉
岩崎鉄男 遠藤茂雄 福澤満雄

2013年

- 1月 宮古聖ヤコブ教会 福澤満雄 遠藤茂雄
岩崎鉄男 匿名希望
- 2月 福澤満雄 遠藤茂雄 岩崎鉄男 比嘉正勝
長岡淳三 小泉金次郎

*献金の送金方法

① ゆうちょ銀行「自動送金サービス利用」

毎月1000円1口(何口でも結構です)

口座:「父の学校 日本運動本部」

記号:10140 番号:1839181

(ご自分のゆうちょ口座より毎月自動引き落とし。窓口にてお申し込みいただけます。

送料120円はご本人または受取人(本部)負担。

受取人負担とする場合は、申込み用紙に本部の届け出印が必要です。お申し出いただければ、届け出印を押して、送金人様に送付いたします)

② ゆうちょ銀行 振り込み(ATM機利用)

「ゆうちょ銀行」

口座:「父の学校 日本運動本部」

記号:10140 番号:1839181

<ゆうちょ同士の振り込みは、手数料無料です>本部推薦!!

今後ともよろしく願いいたします。